

平成26年度 指定管理者制度モニタリング結果報告書

1. 施設概要

施設名	21世紀の森		
所在地	南足柄市内山2870-5		
サイトURL	http://k-mask.jp/21/		
根拠条例	神奈川県立21世紀の森条例		
設置目的(設置時期)	森林及び林業に関する知識の普及及び向上並びに林業の振興を図り、併せて県民の保健及び休養に資する(昭和58年から設置)		
指定管理者名	株式会社足柄グリーンサービス		
指定期間	H23. 4. 1～H28. 3. 31	施設所管課	森林再生課

2. 総合的な評価

総合評価	総合的な評価の理由と今後の対応
<p style="font-size: 2em; margin: 0;">A</p> <p style="font-size: 0.8em; margin-top: 10px;">S：極めて良好な管理運営状況 A：良好な管理運営状況 B：一部改善が必要な管理運営状況 C：抜本的な改善が必要</p>	<p>管理運営等の状況： 当該施設の魅力向上のため、提案どおりの維持管理業務の運営を行っている。維持管理においては、倒木・土砂崩れ等により閉鎖されていた散策路の復旧を行い、積極的に施設の利用拡大に努めている。 自主事業については、年間約20回実施したほか、地域の団体と連携したイベントの開催や、ボランティアの活用など、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>利用状況： 年に1回の地域ぐるみのイベントとして「県産材まつり」を実施し、昨年度の10倍のチラシを配布するなどPRに努めたところ、5倍以上の来場者が得られた。全体として、昨年度比で来場者数が25%増となる約5万人となり、近年の来場者の減少傾向を終了させ、年度目標も20%以上上回る結果となったため、S評価となった。</p> <p>利用者の満足度： 上位2段階の評価が約80%となったため、A評価となった。</p> <p>収支状況： 事業計画に沿った運営を行っており、指定管理料の範囲内で概ね良好に執行されているため、A評価となった。</p> <p>苦情・要望等： 苦情・要望はなく、OJTによる職員の習熟度アップにより接客応対も向上していると認められる。</p> <p>事故・不祥事等： 事故・不祥事等はなく、適切な管理運営が行われていると認められる。</p> <p>以上の管理運営状況を総合的に勘案し、総合評価をA評価とした。今後は、引き続き、広報の取組を継続するとともに、利用者からの要望を踏まえた施設管理等、さらなる利用拡大に努めてもらいたい。</p>

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	H26. 8月	指定管理者は電子データでの事前の提出に加え、指定期日までに報告書の送付を行ったが、提出日が休日であったため、県での収受は翌日の月曜となった。
現場確認	実施日	特記すべき事項等があった場合はその内容
	4/18、5/23、10/17、1/9	該当なし
随時モニタリング指導・改善勧告等の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	指導・改善勧告等の内容
		該当なし

4. 管理運営等の状況

〔 指定管理業務 〕

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
広い面積と、様々な自然環境を有しているため、維持管理業務は季節の移り変わりや、利用者の利用状況などを勘案して年間計画を立案して行う。	散策路等の安全点検パトロールを随時実施し、通行の安全確保に努めた。 園内各所での落葉清掃、草刈整備、枝打ち、倒木処理を行うとともに、利用者の安全確保のため、季節に応じて、路面凍結防止剤の散布やハチの巣除去、ハチ・ヘビの注意掲示物の設置を行った。	
自然の樹木や、来場者への便益施設、管理施設などが複合的に存在しているため、自然環境保全、機能保全、アメニティーという要素をバランスよく保つような維持管理を実施する。	施設管理の基本の考え方を変更し、計画外の人手を投入してでも短期間に閉鎖箇所を無くするという高レベルな安全確保の施策を実施した。 安全確保に問題がある閉鎖中の散策路を改善し、約3年ぶりに開通させた。 散策路沿いの低木の伐採除去やヒノキ林の列状間伐を行い、眺望を改善した。	
台風や降雪など異常気象による突発的被害には、適時対応、修復作業を実施していく。	2回の台風通過をうけて、休場日の特別巡視を実施した結果、土砂崩れにより管理道路が埋まる被害の発生を確認したが、速やかに土砂の除去を行い、来場者の通行を妨げる事態は回避した。	
自然と親しみ、心と体を癒やす場として、県民の保健及び休養に資するような管理運営を行う。 また、地域住民にも有効に活用してもらうことで、利用者との交流を図ることができる「森の交流ステーション」（森の駅）として管理運営を行う。	県の未病いやしの里の駅事業において、「森の駅」に登録を行った。森林を活用した未病対策を中心にPRを行う予定。 21世紀の森サポートクラブを設置し、自主事業の支援、協力をサポーターにボランティアで依頼し、県産材まつりの運営等に結びつけた。	

〔 参考：自主事業 〕

事業計画の提案内容	実施状況等																																																																		
自然環境学習、自然体験学習、自然工作学習、冒険体験学習の4つのジャンルに整理し、年間を通じて20回以上の定期的な自主事業を実施する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>事業内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>自然工作 茶作りと桜のお茶会</td><td>17人</td></tr> <tr><td></td><td>自然工作 ヒノキのマイはし作り</td><td>85人</td></tr> <tr><td></td><td>自然体験 矢倉岳に登ろう</td><td>21人</td></tr> <tr><td>5月</td><td>自然工作 ことり笛と竹とんぼ作り</td><td>37人</td></tr> <tr><td></td><td>自然環境 春の野鳥観察</td><td>8人</td></tr> <tr><td></td><td>自然工作 オリジナルチェア作り</td><td>11人</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自然工作 オリジナルチェア作り</td><td>7人</td></tr> <tr><td>7～8月</td><td>自然工作 夏休みの宿題</td><td>962人</td></tr> <tr><td>8月</td><td>冒険体験 夏休みのアドベンチャー</td><td>12人</td></tr> <tr><td></td><td>冒険体験 夏休みのアドベンチャー</td><td>14人</td></tr> <tr><td>9月</td><td>自然工作 手作り木琴を作ろう</td><td>32人</td></tr> <tr><td>10月</td><td>自然環境 キノコって何？</td><td>9人</td></tr> <tr><td></td><td>自然環境 かながわ県産材まつり</td><td>4,145人</td></tr> <tr><td>11月</td><td>自然工作 ヒノキのマイはし作り</td><td>17人</td></tr> <tr><td>12月</td><td>冒険体験 落ち葉のプール遊び</td><td>13人</td></tr> <tr><td></td><td>自然工作 杉玉作り</td><td>29人</td></tr> <tr><td>1月</td><td>自然工作 オリジナルチェア作り</td><td>5人</td></tr> <tr><td></td><td>自然環境 冬の野鳥観察</td><td>8人</td></tr> <tr><td>2月</td><td>自然工作 ダイニングテーブル作り</td><td>13人</td></tr> <tr><td>3月</td><td>自然工作 ダイニングテーブル作り</td><td>24人</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>5469人</td></tr> </tbody> </table>	月	事業内容	参加人数	4月	自然工作 茶作りと桜のお茶会	17人		自然工作 ヒノキのマイはし作り	85人		自然体験 矢倉岳に登ろう	21人	5月	自然工作 ことり笛と竹とんぼ作り	37人		自然環境 春の野鳥観察	8人		自然工作 オリジナルチェア作り	11人	6月	自然工作 オリジナルチェア作り	7人	7～8月	自然工作 夏休みの宿題	962人	8月	冒険体験 夏休みのアドベンチャー	12人		冒険体験 夏休みのアドベンチャー	14人	9月	自然工作 手作り木琴を作ろう	32人	10月	自然環境 キノコって何？	9人		自然環境 かながわ県産材まつり	4,145人	11月	自然工作 ヒノキのマイはし作り	17人	12月	冒険体験 落ち葉のプール遊び	13人		自然工作 杉玉作り	29人	1月	自然工作 オリジナルチェア作り	5人		自然環境 冬の野鳥観察	8人	2月	自然工作 ダイニングテーブル作り	13人	3月	自然工作 ダイニングテーブル作り	24人	計		5469人
月	事業内容	参加人数																																																																	
4月	自然工作 茶作りと桜のお茶会	17人																																																																	
	自然工作 ヒノキのマイはし作り	85人																																																																	
	自然体験 矢倉岳に登ろう	21人																																																																	
5月	自然工作 ことり笛と竹とんぼ作り	37人																																																																	
	自然環境 春の野鳥観察	8人																																																																	
	自然工作 オリジナルチェア作り	11人																																																																	
6月	自然工作 オリジナルチェア作り	7人																																																																	
7～8月	自然工作 夏休みの宿題	962人																																																																	
8月	冒険体験 夏休みのアドベンチャー	12人																																																																	
	冒険体験 夏休みのアドベンチャー	14人																																																																	
9月	自然工作 手作り木琴を作ろう	32人																																																																	
10月	自然環境 キノコって何？	9人																																																																	
	自然環境 かながわ県産材まつり	4,145人																																																																	
11月	自然工作 ヒノキのマイはし作り	17人																																																																	
12月	冒険体験 落ち葉のプール遊び	13人																																																																	
	自然工作 杉玉作り	29人																																																																	
1月	自然工作 オリジナルチェア作り	5人																																																																	
	自然環境 冬の野鳥観察	8人																																																																	
2月	自然工作 ダイニングテーブル作り	13人																																																																	
3月	自然工作 ダイニングテーブル作り	24人																																																																	
計		5469人																																																																	
年1回、地域ぐるみのお祭りとして、県産材を使った木工体験を通じ、神奈川の森林・林業についての啓発事業を実施する。	「県産材まつり」は、県、インストラクターの会、郵便局等の団体からの参加を受け、規模を大幅に拡張した昨年並みの催しとなった。 PRのためのチラシの配布数を昨年の10倍に増刷して知名度アップに力を注いだ結果、来場者は、昨年度の5.3倍となる4,145人となった。																																																																		
交通機関を利用し来場するには利便性の悪い場所に位置しているため、土・日・祭日を中心とした自主事業実施時に、マイクロバスによる送迎を実施する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>送迎回数</th> <th>乗車人数</th> <th>送迎回数</th> <th>乗車人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>2</td><td>16</td><td>10月</td><td>0</td></tr> <tr><td>5月</td><td>2</td><td>8</td><td>11月</td><td>0</td></tr> <tr><td>6月</td><td>0</td><td>0</td><td>12月</td><td>0</td></tr> <tr><td>7月</td><td>0</td><td>0</td><td>1月</td><td>1</td></tr> <tr><td>8月</td><td>0</td><td>0</td><td>2月</td><td>0</td></tr> <tr><td>9月</td><td>0</td><td>0</td><td>3月</td><td>0</td></tr> <tr><td>上半期計</td><td>4</td><td>24</td><td>下半期計</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>総計</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>28</td></tr> </tbody> </table>	送迎回数	乗車人数	送迎回数	乗車人数	4月	2	16	10月	0	5月	2	8	11月	0	6月	0	0	12月	0	7月	0	0	1月	1	8月	0	0	2月	0	9月	0	0	3月	0	上半期計	4	24	下半期計	1				総計	5					28																	
送迎回数	乗車人数	送迎回数	乗車人数																																																																
4月	2	16	10月	0																																																															
5月	2	8	11月	0																																																															
6月	0	0	12月	0																																																															
7月	0	0	1月	1																																																															
8月	0	0	2月	0																																																															
9月	0	0	3月	0																																																															
上半期計	4	24	下半期計	1																																																															
			総計	5																																																															
				28																																																															

5. 利用状況

評価	《評価の目安》目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	[参考] 直営/管理委託/指定管理※2	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※1	44,024	42,222	39,889	49,979
対前年度比			94.5%	125.3%
目標値	[目標値設定根拠]	46,556	43,489	41,086
目標達成率	前年度比3%増	90.7%	91.7%	121.6%

[参考：最大利用可能人数]

	森林館	木材工芸センター				合計
定員	70	25				
年間利用可能日数	323	323				
最大人数※1	22,610	8,075	0	0	0	30,685
稼働率	72.33%	38.85%	%	%	%	

※1 原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2 現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

6. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満
A	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	簡易アンケート：随時 詳細アンケート：年1回以上	簡易アンケートを随時と、協定に定めた詳細アンケートを3月に実施した。 施設の広さと古さに起因する施設整備状況(主にトイレ)への評価の影響で、前年度に比べ満足と回答した割合が10%減少した。

実施した調査の配付方法 利用者等に配布 回収数/配付数 157 / 1324 = 11.9%

配付(サンプル)対象 自主事業イベント参加者へ配布

	とてもよい	よい	ふつう	あまりよくない	わるい	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	56	69	28	4	0	157	回答(満足)：スタッフの対応が良かった
回答率	35.7%	43.9%	17.8%	2.5%			
前年度の回答数	38	43	7	0	0	88	
回答率の対前年度比	82.6%	89.9%	224.2%				

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

	[参考] 直営／管理委託 ／指定管理※	前々年度	前年度	平成26年度	備考
(1) 収入					
[参考] 年度計画	29,930	28,470	28,470	29,285	
指定管理料	29,930	28,470	28,470	29,285	
利用料				0	
その他収入				0	
合計	29,930	28,470	28,470	29,285	
対前年度比		95.1%	100.0%	102.9%	
対 計画比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
(2) 支出					
[参考] 年度計画	29,930	28,470	28,470	29,285	
支出額	29,378	28,056	28,470	29,078	
(内 納付金)					
対前年度比		95.5%	101.5%	102.1%	
対 計画比	98.2%	98.5%	100.0%	99.3%	
(3) 収支					
[参考] 年度計画	0	0	0	0	
収支差額	552	414	0	207	
対前年度比		75.0%	—	—	
収入合計／支出合計の比率	101.9%	101.5%	100.0%	100.7%	

※ 現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

※ の欄は記入不要。

[参考：県が支出した修繕工事費] ※県が支出する計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額)
26年度上半期	1,446	森林館トイレ網戸及びオムツ替えシート取付(282千円)、水辺のトイレ屋根補修(83千円)、木材工芸センター電気工事(379千円)、変電設備工事(702千円)
26年度下半期	2,594	森林館トイレ改修(907千円)、森林ふれあいセンターテラス改修及び畳表替え(1,188千円)、森林館事務室床塗替(499千円)

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等： 5万円以上)

[参考：資本的な収入及び支出等の状況]

	金額(千円)	内 容(金額)
収 入		
支 出		
積 立		

該当なし

8. 苦情・要望等

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件	該当なし	
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	事故等の概要	原因・問題点	①指定管理者の対応状況(再発防止策・業務改善策等) ②県の対応状況(随時モニタリング・改善勧告の実施等)
		該当なし	

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したのもでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。